

大分県次世代型遠隔教育ネットワーク

目的

どの地域においても、生徒自らの可能性を最大限に伸ばし多様で質の高い高校教育を提供できる環境を実現するため、以下の取組を行う。

- 1 遠隔教育配信センターを中心とした、遠隔授業と遠隔機器を用いた通信教育を柱とする、遠隔教育における大分モデルの確立
- 2 遠隔授業において、配信センター方式と学校間連携方式の2つの形態による授業配信
- 3 通信教育において、6つの生徒進学支援オプション（SOP）という遠隔機器を用いた学習支援

遠隔教育、通信教育に関する取組の概要

遠隔教育について

●遠隔授業（配信センター方式）

大分県教育庁遠隔教育配信センターから地域の普通科設置校を対象とした、同時双方向型で習熟に応じた授業の配信

【実施教科】数学（2、3年生）、英語（2、3年生）、理科（3年生）

- ・異なる地域の2校がペアとなり、2校合同で参加することが可能
- ・授業支援アプリや机間指導支援アバター、学校間グループ協議用機器により、教員と生徒のやり取りに加え、異なる学校の生徒間の交流が可能
- ・準備4校（R6）→実施4校、準備8校（R7）→実施12校、準備5校（R8）



【試行授業の様子（受信側）】



【試行授業の様子（配信側）】

●遠隔授業（学校間連携方式）

専門科目を実施する学校から他地域の学校を対象とした同時双方向型授業の配信

【R6年度実施教科】商業（プログラミング、情報処理）、福祉、農業（環境土木[測量]）、数学、英語

- ・R6年度以降は、配信校4校、受信校5校で遠隔授業を継続実施

通信教育について

●教育課程外で6つの生徒進学支援オプション（SOP）を実施

[SOP1]

長期休業中の特別授業

[SOP2]

動画教材の配信

[SOP3]

オンライン個別指導

[SOP4]

オンライン課題配信

[SOP5]

オンライン進学支援講演会

[SOP6]

オンライン教科別個人面談

【SOP1、2】県内全域の普通科等設置校を対象

R7年度より試行実施（R8年度より本格実施）

【SOP3～6】遠隔授業（配信センター方式）導入校を対象

R7年度以降、遠隔授業導入に応じて学校ごとに随時実施

- ・生徒へのきめ細やかな学習支援の継続的な実施による、生徒の学習面や行動面での変容の検証

今年度の成果と課題について

●成果

- ・配信センター方式の中心拠点である大分県教育庁遠隔教育配信センターの設置
- ・SOPの具体的内容のアップデートと対象校の拡大
- ・R7年度導入校の生徒を対象とした遠隔体験授業の複数回実施
- ・専用ランディングページやパンフレットによる中学生も含めた広報

●課題

- ・学校間連携方式による遠隔授業担当者への管理機関としての支援
- ・生徒の状況に応じた、自宅での学習を可能とする仕組みの構築